阿弥陀經和訓圖會

下

180
ア
下

阿彌陀經和訓圖會卷之下

舍利弗如我今者讃歎阿弥陀佛不可思議功德

又舍利弗ふ説のへなり。如我今とゝ以下の文を我今阿弥陀佛
の不可思議功德を讃歎するゞ如くとの意ゆく次の文を引起
辞なり。不可思議功德とハ功德の廣大無邊なる事不可思議
との義讃歎を讃る叉歎を讃ても猶餘りあるとの事なり

東方亦有阿閦鞞佛須弥相佛大須弥佛須弥光佛妙音佛
東方亦有とハ東の方乃浄土ゆも數く佛有とゝ。先其首ゆハ阿閦
鞞佛とゆハ梵名ふく翻訳とれゞ不動とゝ義なり。法身寂り
く不動との義次ゆ須弥相佛とハ須弥山を山乃拔く高き者也

それ仏徳を准ぐ須弥相佛とハ申せり。須弥ハ梵語にて繹とれむ妙高と云ふ義なり。高さ八万由旬根ハ金輪際下界の名より出ず。日月その山乃半腹を回り。諸天神常ハ此山に遊とあり。大須弥佛須弥光佛も。おのゝ佛徳乃高く廣き事ハ須弥山に准し名なり

妙音佛とハ説法しの其音声乃妙なる故名付申なり

如是等恒河沙數諸佛

如是等とハ如是等と云ふ義。右の五佛をさして云ふ。恒河沙數諸佛とハ無數の佛と云ふ事なり。恒河ハ天竺の極く廣く大なる河なり其大川の沙乃數なぞらへ意なく數も限もなしね程の佛と云ふ意と申なり

各於其國出廣長舌相徧覆三千大千世界説誠實言

各於其國より説誠實言おのゝの意ハ東方浄土の諸佛各其國に於廣く長き舌相を出し徧く三千大千世界を覆ふ。誠實に阿弥陀佛乃功徳廣大なる事を説の義なり。佛の三十二相乃中に舌ハ廣く長く面を覆とあり。然ども舌の相を出して三千大千世界を覆と有恐くも舌を以て世界を覆ふハあるべ。阿弥陀佛の功徳を説の其説法の徧く三千世界に満及を覆と云なり

汝等衆生當信是稱讃不可思議功徳一切諸佛所護念經

汝等衆生と汝等衆生とは事なり。聴衆を指すなり。当信を当信と信じ奉りと列。是称讃不可思議功徳一切諸仏所護念経とは文を一切の諸仏も是阿弥陀仏の不可思議功徳を称讃す。此阿弥陀経を護念したまふの意なり。されば汝等此経を信じ奉りと也

舎利弗南方世界有日月燈仏名聞光仏大焔肩仏須弥燈仏無量精進仏

此段は東方に次ぐ南方の浄土有諸仏を挙げたまふ文なり。日月燈仏とは其仏の徳を日月燈三乃光明なるに比して号し名なり。それ日月燈の三の光を周く照す徳あり。此仏も衆生の無明の闇を照したまふ徳有を以て斯号なり。抑日の光を周く破る徳あるを以て是を般若に比して一切智と号す。月光を清涼を以て夜を照す徳あるより解脱に比し。道種智と名付燈を昼夜に通じ。日月に継ぎ暗を照す。法身に比して一切種智と号す。名聞光仏とは其名其声徧く十方世界に聞えて。喩へば日光の照さざる所なきが如くなる故号す。それ智能有者は其名声足なくして千果を生じ。翼なくして万邦に飛ぶと迹を山林に隠し名を遁れても世人猶よく是を知。然ども今の世の僧は面むき知識の真似をし道徳なくして名声を貴んとする徒多し其内心の邪欲を仏是を憎まる。此仏の如くは名を聞ても功徳をふむることなし。大焔肩仏とは焔は不のをなり。理を照すを表す。肩とは肩なり。其意は因肩より焔を発し一切の事理を照すを喩へ号す

按ずるに焔肩の相は不動明王の迦樓羅焔弥陀十二光の中の焔王なども此相なり。須弥燈佛は前に演ぶるごとく。須弥山に燈を照をうごとく此佛の德の高く明なるに比し名なり。無量精進佛とは無量は量なしとの義精進は進て退く事なしを云。此佛正覚の道に進む叟無量との名なり

如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相徧覆三千大千世界說誠實言汝等衆生當信是稱讃不可思議功德一切諸佛所護念經

以上の文は前段と同じ文なれ注も前に演ぶる如し以下皆同じ

舍利弗西方世界有無量壽佛無量相佛無量幢佛

大光佛大明佛寶相佛淨光佛

此段も西方淨土の佛の名を挙たる。但し此西方世界ハ極樂土乃事ホあらず。極樂國より猶西ホある淨土なり。無量壽佛と。阿弥陀佛と同名なれども別の佛なり。佛の數極く多くれど同じ名の佛も數多あり。無量相佛ハ相好無量なるゆへ号く。それ相好ハ三十二相八十種好。或ハ八万四千相。又ハ微塵數の相とて。福德も無量なれど相好も又無量なり。故ホ名付く。無量幢佛ハ幢ハ即ち幢旛ホて旛なり。旛ハ高く建て是を高く建て其所を知しむる器なり。唐山ホても高德の僧乃住所ホハ幢旛を建て。諸人ホ遠方よりも其所を知しむ。此佛の德乃高き事幢のごとくの名なり

大光佛大明佛と。光と明とハ佛智ホ喩。大光大明と六乃字を用ゐハ諸天諸菩薩ハ光明あり。日月の光を借用ひど無けれども此佛の光明ホ比ぶれば猶小し。故ホ大の字を加へなり

寶相佛と。相好殊ホ勝れて。尊き事如くの喩ホ号く。經ホ佛の眉間乃白毫の相を。瑠璃筒と云。肌の相を紫磨金と云。肉髻の相を甄叔迦と云。皆寶ホ喩て名付く。此佛も其と同じ意なり。淨光佛と。淨ハ淨と訓。垢穢なく潔白なるを淨と。光ハ光明なり。淨き光明と。意ホて淨光と号く。それ野火螢燭ハ光あれども淨からず。此佛の光明ハ勝て淨しなり

如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相徧

覆三千大千世界說誠實言汝等衆生當信是稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經

前と同文なれ共注も前に同じ

舍利弗北方世界有焰肩佛最勝音佛難沮佛日生佛網明佛

此段は北方淨土の佛乃名を擧げたり。焰肩佛とは南方の段に擧げし大焰肩佛と同じ意なり。此下の上方乃段にも大焰肩佛ある。無數の佛乃中間名數多ある支前の無量壽佛乃類なりと知べし最勝音佛とは說法なる其音声最勝なる妙音なるを以て号しなり。それ佛の功德を演ずるも音声なれば說弘る支能はざ

佛弟富樓那尊者は能弁なる如来に代てまむく說法し弁舌第一の名を得たり其外和漢の名僧弁舌を以て名を揚し人枚挙にいとまあらず。音声の功德人間のみならず諸天も歡喜し鬼神も感悅なれば音弁の功德を尊びて最勝音佛と号し難沮佛とは沮の字を用ひもあり。諸說一定なれども近く以て

阻を阻と列く此佛の功德阻難の義なり。湯〻〻の意と知べし。日生佛とハ日乃出て闇を破り照すが如く。此佛乃功德を以て衆生の煩惱乃闇を照すの意を以て号なり。細明佛とハ細を細なり。此佛の功德細なる事細の用乃連くふ事なく止終なしが如しとの喩を名付く

如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相徧覆三千大千世界說誠實言汝等衆生當信是稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經

註解前ハ同じ

舍利弗下方世界有師子佛名聞佛名光佛達摩

佛法幢佛持法佛

此段を下界の淨土の佛乃名を挙く。獅子佛とハ。獅子を獸乃中の王ハ遊行するハ百の獸ハ畏躓る。又獅子一度吼るを百獸畏怖る。其〻〻此佛の法威を天魔外道ハ伏する事喩を号く。佛の言を發し給ふ獅子吼とハも同意なり。名聞佛名光佛ハ前の南方の段ハ註せし名聞光佛と同意ハ。名聞を德を表し。名光を智を彰すの義ハ。とハ此佛の功德を誉て号なり。達摩佛とハ達摩を梵語ハ翻譯すれば法と云義なり。此佛法を以て身を德を持ハ故ハ名とす。法幢佛とハ前ハも註するが如く幢ハ旗

ゆゑに目ぎゝなり。此佛の德乃高大と憧乃ごとく。人天ハ遠く見
く慕ひまつり。外道悪人を遠くへだゝく怖避るゆゑの名なり。持
法佛とハ持法を梵語にて陀羅尼と云ふ。法を持く傾き動
く要ゆゑの意ゆゑ持法佛と名付くゝ

如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相徧
覆三千大千世界說誠實言汝等衆生當信是稱
讃不可思議功德一切諸佛所護念經

註解前ホ同

舍利弗上方世界有梵音佛宿王佛香上佛香光佛
大焰肩佛雜色寶華嚴身佛娑羅樹王佛寶華

德佛見一切義佛如須彌山佛

此段ハ上界の淨土乃佛を挙ゝ。梵音佛とハ梵ハ淨にて淨
音の佛と申義なり。梵音ハ大梵天王の出しゆゑ所乃声にて一切
乃音声乃中ホ殊ホ勝れ。遠く聞ても小ゝ近く聞ても大ホ
ゝ。よく三千大千世界ホ満聞ち。此佛の德も梵音乃如しと
喩し名なり。宿王佛とハ宿ハ天の星乃名ホ。星の王を月天子也
是即ち宿王佛と申なり。香上佛とハ香ハ戒德を譬てゝ上を
此上ホ過る者なしとの義なり。真乃香ホ和ゝ。佛の德を香ホ
喩し名なり。それ香ハ離穢とも号ゝ。是を焼ゝハ其白ハ馥郁と
しゝ上ホ徹し下ホ徹し四方ホ薫じて穢不淨をもゝ。神明も

まりのひ。緒佛緒尭も其名をきく
て歡喜ーのふきれば神前佛前
ふも香を焼なり。昔韓壽字を
德眞とい人堵陽といひ所の產
なるが天性美男なりなれば時の
司空賈充といひ人の女韓壽が
美貨ふ懸想ーく。艶書數通を
やる遂ふ情を通ーなるが其頃
西域より名香を帝ふ献上を
帝是を貴び愛ー少を分ちく

賈充が女韓壽ふ名香を贈る圖

司空賈充ふ賜りれば賈充大ふ
怡び是秘藏ーなるふ充が女の
名香を竊ーく韓壽ふ与なり。韓
壽件の香を身ふ帶なるより其
香氣あるふ薫じて隠ちく人
異まざるなり。賈充韓壽が身
の香氣を嗅ーく是我女と密通
ーし女の手より西域の名香を得ー
なるべーと覚り。遂ふ韓壽を婿
とーし女ふ娶ーなり。世說凡香ふ十種の

名有栴檀沈水薫陸鬱金白膠青木零陵甘松鶏舌是なり。此外猶名香多し。皆遠く芳る支節も香上佛の
徳香、功徳利生の薫都あり。遠く十方世界に聞こゆ。何ぞ塵世
の香の及ぶべき。香光佛。是も香上佛と同じ意なり。それ常に
香に近着者は皆つゝ香氣あり。佛の徳香に近着者も又是の
如し。是を香光莊厳と謂り。此二佛の名も是に因て名付られ
大焔肩佛を前の段と同名あり。経も同じ。雑色宝華厳身佛は
此佛の智徳を色と雑る華に喩。其宝の華を以て身を莊厳す
るの喩と設て号けたり。昔釈尊御在世の時羅閲國の大王十余
人の宮女を國中に使して妙なる花を採来て命じ給ふ其中に

一人の宮女殊に妙なる花を採得て帰る路にて釈尊に遇奉り
其御相好の端正微妙なる尊容を我身の罪に行る事を厭
ふと。採得る花を釈尊に供養す。釈尊其志を賞して善
哉と宣ひ、宮女父母の家に帰り両親に向て曰。妾王宮に参
じ必ず刑に行れ侍る。これ是を今生の御別れなりと云れ
ば。父母大に驚き其故を問に宮女有て一五一十を語れば父
母愁に悲て花を入て宮に用れば種々の珠花宮の中に満る。又
母も女も是を不測と思ひ以前に増て妙なる花多れば是を
宮女携て王宮に参り献上す。王其帰の遅を怒て宮女
を市に出して刑に行んとす。されども宮女少も哀て愁る色なし。王

異〻ここに其故を問宮女少も包まず。釈尊の花を供養し。帰りて
見れば宮の中の以前の花より麗しく花種〻有り由とやとる。王不
審おはしの。釈尊乃精舎へ到り向たまふ。如来其女のやどりしこのまよ
是のよりて羅閦王佛法の不可思議功徳を感じ。三宝帰依の意
を生じ。宮女の罪を宥せりとぞ 採花授決経説 悠〻て佛の花を供ずるハ其
功徳大深し。然ども人界の花ハ散安くうつろ〻安し。されば飛花落
葉と無常の喩ふ。今此佛乃雑色宝華功徳所感の花なるゆえ
の万劫を歴とも散うつろ〻ぬ。法身を荘厳して永基義の愁なし
色香光明常住厳麗なる事宜なるべし。安羅樹王佛とハ安羅ハ
梵語なり翻譯されば堅固と義なり。冬夏とも不凋樹とい

卯月八日
華を供ずる
図二

ふ意なり。安羅樹と号ふ。此佛乃
法身変易なるゆえ常住不
滅なるゆえ喩し名なり。それ安羅
樹ハ拘尸那國跋提河のほとりに有
木の皮青白く葉ハ甚だ光潤あり
と云 西域記説 昔釈迦如来跋提河の辺
に背痛の御病おはしなるゆえ左
阿難に命じて。安羅樹の下に床を
布敷しめ。此林四方に羅漢ハ樹
乃安羅樹あるべく。勝れて梢高し

東方の一双を常と無常とに喩へ南方の一双を樂と無樂とに喩へ西方乃一双を我と無我とに喩へ北方の一双を淨と不淨とに喩へ四方相双を四つ〻娑羅双樹とも又娑羅双林とも号す如来其中にて頭北面西右脇卧にて終に入滅し給へ（猶ほ釈迦如来御代記に述べる）此時娑羅樹慘然として一双毎に一樹を枯て白く一樹は栄て青く遠くこれを臨んで見れば青白交りて鵠鶴の群集ごとし故に鶴林とも又鶴林とも木とも号す（後々の説）然ども娑羅王佛は堅固不変の義をとり〻て寶華德佛と前に宝華とも〻佛身と荘厳とを喩へ是又宝華の德を以て名とす抑宝華に四德あり一に周落せざるの德二に人の意を怡ばしむるの德三に宝華外に讃美の名を求ざる乃德四に宝華の体を清潔なる乃德此四の德を常樂我淨と説なり見一切義佛とは一切万法の甚深なる妙義とゝるとの義を以て名とせり須彌山佛とは前乃東方の段に相好光明を須彌山の高に喩へ德の好妙高大なる譬喩なり

如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相徧覆三千大千世界説誠實言汝等衆生當信是稱讃不可思議功德一切諸佛所護念經

前と同文経前に同

舍利弗於汝意云何何故名爲一切諸佛所護念經

此文の意は舍利弗汝が心に何故に名付て一切乃諸佛の護念所

経と為ゆと思へんが。阿弥陀佛の功徳ハ不可思議なり。余の佛ゆも各
ゆ超勝られど。一切の佛ゆも此経を護念ゆふゆゑ。ゆる上六念佛信心
の衆生を勿論一切の佛ゆも護念ゆふ所ゆゑの義なり。夫諸佛乃
護念なる者ハ邪道ゆ入易く。成佛ハ遂ゆ難し。昔佛在世のゆる。一人乃道
人有て。或河の辺なる樹下ゆ坐し。佛道修行ゆる支十二年ゆ及ぶ
遂ゆ妄念を除去し能ず。目ゆ見耳ゆ聞毎ゆ魂動ゆる其身ハ静ゆる
ゆうあれども。意を十方ゆ馳散し妄念起り。道を成就ゆる支を得
ず。釈尊渠を憐ミ給ひ。化度し得給ハんと。化して沙弥とあり。彼
道人の樹下ゆ到り宿しゆふ須臾あり。月さし出朗ゆ照して隈ゆ
しゆ一の亀川より出陸へ這上る。時ゆ又二頭の水狗出あり亀を
噉六如亀防意如城共鼈戰勝則無患道人此偈を聞
て俄ゆ悟道し道ゆ入て成を得り 法句譬喻経の説
適佛門ゆ入とゆゑ。信心堅固ゆゑ。れど動もされず外道の為ゆ心を
惑乱せられ悪趣ゆ墮。ゆる是諸佛の護念なる友なり。諸佛の護念
を得ん思ひ。唯一心ゆ念佛し妄念を除去ゆるなり
舎利弗若有善男子善女人聞是諸佛所説名及経名者
善男子善女人ハ前ゆ説ひし念佛の信者とゆ。聞是以下ゆる是諸佛
の説所乃阿弥陀佛の名及び経の名を聞とあるゆの義なり
是諸善男子善女人皆為一切諸佛共所護念皆得
不退轉於阿耨多羅三藐三菩提

右の文の意は諸佛の統所の名及び經の名を聞く念佛の信者は共に
諸佛に護念せらるゝが故に成佛の道を不退轉して菩提得て無上正
等正覺を得るとの義なり。不退轉 退轉せと釈く成佛の道を退
ざる義。阿耨多羅を翻譯されば無上と云義。三藐を譯されば
正等と云義。三菩提を譯されば正覺と云義なり。是成佛なる
べし。不信心なれば外道の障碍に。佛道を願心発退轉さる
なり。信心堅固なれば諸佛が護念の故に外道も信者の心を退轉す
る能はず。是を不退轉と云なり

是故舍利弗汝等皆當信受我語及諸佛說

此文は前の文を受て是故に舍利弗汝等當に我語と及び諸

佛の統の所を信に受持べしと聽衆に勸めなり

舍利弗若有人已發願今發願當發願欲生阿弥陀
佛國者是諸人等皆得不退轉於阿耨多羅三藐
三菩提於彼國土若已生若今生若當生

此文の意は若人有て已に願を發し今願を發し當に願を發
し。彼阿弥陀佛國に生んと欲する諸人等は皆信心を退轉せず
無上正等正覺を得て。彼國に已に願を發せし者は已に生て今
願を發す者は今生し。當に願を發す者は當に生ぜしの義
なり。爰に已と云は今と云は當と云。三段に統の文は已今當の三字
は過去現世未来の三世なり。喻へば釈尊御出世より前世

願を發せる者は已に彼極樂國に生る。釈尊御在世の今願を發
せる者は今彼國に生る。釈尊御入滅の後願を發せる者は當に彼
國へ生まるべしと悔ふなり。不退轉阿耨多羅は前の註のごと
是故舍利弗諸善男子善女人若有信者應當發
願生彼國
此文を前の文を受く。是故に諸の善男子善女人若信心有者は
當に願を發して。彼阿弥陀佛の國へ往生せんと願べし。再び丁寧に
勸めたり。此當の字は未来の叉なり。早く願を發せよとの義なり
されば極樂往生せんと願ふものは他力本願の旨を疑ふ。唯一心に念佛
せばなり。往昔摂州勝尾寺七代目の燈如上人と法然上人の

大往生を羨しく思ひ勝尾寺の奥般若ヶ嶺に庵室を結び
一人閉籠十二年ゞ間無言の行を勤め往生の素懐を遂んことを
願ふ。或年八月十五日の夜菴室の戸を敲く燈如御坊や
おはすると呼者あり。上人無言の行中なれば鈴を振て其在菴を知
されば外面より我は播州加古郡に住する教心と云者なり。今
極樂へ往生しいなり。御房は来年の八月十五日の夜彼國へ往生する
なり。此事を告まゐらせんとて来たると云終り。其後は音もせず。上
人不審に思ひ柴の戸を開き見るに人影さへなし。遥西の空に
微妙の音樂の音幽に聞こえ。偖は加古の教心と云僧の極樂往
生せる歟聖衆の迎へなりとて。其翌日弟子僧燈閑と云者と

加古の教心證知上人ハ往生の機と示す図

招ク徐播州ヘ下ル。加古郡ニテ教心
と云僧や有と問まゐらせ命ぜられ
ければ。證雨坊心得ぬ事ながら即時ハ
旅立ち。播州加古郡ヘ到り教心と
云出家ありやと土人ハ問ふ。いらハ
ば有其者の家ハ彼所なりと教
へ。證雨其教の家ヘ尋往ける
ハ。いとも矮屋に葉家乃内ハ忍やか
女の泣声ばかり。不審おぼつかなく音ハ
ひく内ハ入れば。母子とおぼしき二人

の女泣居たり。證雨問ていハく。你達何
事とか。愁ひ悲むやと問ふに。母なる
者ハ涙を流し。妻なる者ハ夫なる者二
日以前ハ死沒ぬ。聞て野送する
便もなく。如何せん娘ハ身の
貧窮なるを答ふ。證雨聞て不
便ハ思ひ。便なき事なり。扯僧
路銀の余ハ有ばかりなり。野送
を営ん進ぜ給へ。先亡者ハ影向
せん死骸を何処ハやと問ハ。彼処ハ

證雨坊教心ノ草屋ハ到る図

迎澄聞我伴ひ屋の後ろを出野径の石の辺に到る夫の骸是
をいと指示す。澄聞是を見れば苦死拾徳を著し禅門
石上に端坐合掌し西に向ひ命終せ体も色も変ずどさぐ
眠るるが如し。澄聞奈感ず。偖も奇特なる往生ぶり何なる
高徳の名僧ぞや。名は何とやせしぞと問ふ妻答へ。徳も学もな
く一字乃仮名さへ知ね人なれど唯念仏と好く。人に雇ひ野掃と
なるも只管念仏とやされる故人〻阿弥陀房〻と呼ぶ其の
名は教心とやせしと云ふぞ。澄聞なるほど其教心とは僧とこそ尋
て下りれ偖こそ此亡者が教心御房なる有るらんと感涙と倶
に影向なし果師の房の上座に下ち袖を結指と

綱〻骸を収め悔の野送し母子に別を告へ勝尾寺へ入る。澄如上
人に見へ有り五十徳の袖を早れば上人大に驚き
偖は教心とは一文不通の禅門なりしるるさる賤の者も一心不乱
に念仏の信者となれば往生の機を示し我命終の月日を教
れ是全く凡夫なれど一生補所乃仏菩薩の化身なるも我も
念仏の尊ぶ事を知と云へども。なほ心に一切経を積自力を特く十二年
無言乃難行を勤し露だりの功徳もなく却て妻帯女色の
教心に劣るとて大に慚愧後悔あり。ふつ〻無言の行を止め
て専修念仏し教心が示しのごとく。翌年八月十五日乃夜大往生の
素懐を遂げ念仏乃信者は極楽国土へ生る事教

心房乃叉と以くも推く知るべし。釈尊の御説法勢く疑ひなく

舎利弗如我今者稱讃諸佛不可思議功德彼諸佛等

亦稱説我不可思議功德而作是言

此文八今我諸佛及び弥陀佛の不可思議功德を称讃ゐ口ゐ諸

佛も亦我不可思議功德を説を称讃して我是言のごゝ説法

を作ゐ給ふなり

釋迦牟尼佛能爲甚難希有之事能於娑婆國土

釋迦ゑ梵語なり。翻譯もれば能仁と云ふ義ゐ能仁と列一切衆生

を能仁ゐ給ふの御名なり。又牟尼も梵語ゐ譯もれば寂然と云ふ義

となる。寂ゑ人乃声なく寂なる事。然ゑ不語なりと有是寂ゐ居て

不語ゑの義なり。或人難ぜ曰。釈迦一代ゐ諸經を説く法を弘む然ゐ

寂ゐ居く不語ゑの名八如何と。答て曰。ゐも如来御一代五十年の間ゐ

一切諸經を説く衆生を済度ゐ給ふ。其真意を一言も宣ゐ所ゐ

ゐ。依く不可以言宣ゑの一字不説ゑも宣ゐ縁ゑ一字も宣所ゐけ

ゑ。假ゐ言説をなして衆生を愉ゐ導ゑ給ふゐ何を以て

理の至極を知ゐ給ふ。此所ゐ八甚深の秘説有べし。其を知識ゐ

就く問明べし。但ゐ此段ゑ八此經の紀者阿難尊者の説なるべし

偖能爲甚難ゑ娑婆國土ゑ云ふまぐの意八能甚難ゑ希有の事

を能娑婆國土ゐ爲ゑの義ゐく甚難八甚ぞ難ゑ云ふ義。希有ゑを

希ゐ有ゑ列未ぞ有ゑ事ゑ云ふ義。娑婆國土ゑ八人界乃事ゑ

娑婆ハ梵語ニシテ。翻譯スレバ堪忍トイフ義ニテ。堪ハ堪ヘト訓ジ。忍ヲ忍ト訓ズ。ソレ人間界ハ諸ノ煩悩苦患ガ身ニ逼リ来ル苦ノ処國ナリ。其苦ヲ我堪忍シテ生涯ヲ送ル故ニ。堪忍土ト云。又ヲ略シテ忍土トモイフハ此世ノ実ナリ。実モ人界ノ有サマハ樂トイフテ悦ブヲ皆悲ノ種ニテ。子ヲ孕ムハ世嗣ヲ儲ル因出産ヲ祝ビ悦ブモ母ハ十月間諸ノ苦ヲ我堪忍ビ。父ヲ何乎平生ヨカレト。ノミハ不具ニハアラズト。夜ノ間モアレバ煩フ苦我堪忍ビ。適無難ニ出生シテモ。仮初ノ病ニモ母ヲ思ヒ氣遣ヒ。神佛ニ祈誓シ。断物サヘ忌ム心我苦ムル其憂苦我堪忍ヲ。余萬ノ苦患ヲ堪忍ゲ此世ノ有サマナリ。張良ハ恥ヲ堪忍ム。三度石公ガ履ヲ取韓信ハ辱ヲ堪忍ム。市人ノ跨ヲ潜ルなんど皆堪忍の二字ヲ学ブ。

それ此世ニ生ルトテハ何ヲモ堪忍セザレバ生涯ヲ送ガタシ。依ル堪忍土トハ。天竺ノ絡ヒ。ハ婆婆國土トハ。ノリ。ノ悪世ニ。佛道ヲ修シ成佛セントモ。ハ甚難ヲ。ニ。ニ下根ノ凡夫ニ如来乃勧ノ。ハ希有乃事ナリトノ。ニ。意ナリ。是何難尊者ガ如来乃廣大慈悲ヲ補贊シ。衆生ニ佛意ノ難有ヲ統

聞えあり。よく〳〵味へ。べき段なり

五濁惡世劫濁見濁煩惱濁衆生濁命濁中得阿耨多羅三藐三菩提爲諸衆生說是一切世間難信之法

此文の前の娑婆國土とて文の續なれども注長なれば略して引かず。偖娑婆國土とは。五濁惡世とて。五の濁ある惡世なりとの義なり。先劫濁とは上代人間の壽命八万歲なりしが。漸くに世下り。釈尊御在世の頃は人間の壽命百歲になり。それさへ希なり。七十才六十才。乃至三十才二十才にて命終も多し。斯壽命の短くなるに從ひ。人の心邪見非道になるを劫濁とは。次に見濁とは見る物に就て欲心萌し。心の清水を濁すを見濁とは。次に煩惱濁とは煩ひ惱む。欲い惜

悪い愛い嬉い悲い以上の六情のことに我と我心を煩し惱して。労水を濁すを煩惱濁とは。次に衆生濁とは。衆生の生とは義なり。一切世間の人をいふ。是も上代を貨利なり。悪事を造る者なるに。漸く世下り人間の德義なく。父母に孝心なく。君に忠義もなく。朋友に信愛もなく。日々に貪瞋癡の三毒のことに身を苦むる。衆生濁とは。次に命濁とは前にもいへる。人間の壽命漸くに短くなり。人の根氣も薄く。天然の壽の百歲を保つを希なり。財を貪りては心を労し。飲食を貪りては五臟を労し。淫欲を貪りては生氣を損じ。命の危ない事風前の燈波上の泡のごとし。無常の刀風に遭へば忽ち呼吸の息絶るべきも。唯徒に百千年も生るべき思ひ

後世の大事ゝも心付どうゝと暮さゞ命濁とハゝなり。得阿耨多羅より難信之法とゝ迫ハ。右のごゝ五濁悪世の中ゝ無上正等正覚と得とゝ甚難希有難信の法ゝ諸の衆生乃為ゝ統ゝハ誠ゝ難有御叡慮なりとの意なり。是一切世間難信之法とハ。ゝる悪世の下根凡夫がなゝ念佛信心まれゝとて。爭ゝ尊ゝ極楽國へ往生せる叡慮あらんゝと。一切世間の者ゝ信ゝ思ゝゝの法とゝ義なり

舍利弗當知我於五濁惡世行此難事得阿耨多羅三藐三菩提爲一切世間說此難信之法是爲甚難

此段ハ又如来の御言と聞ゝ。舍利弗當知とハ。徐當ゝ知ゝゝとの義ゝて。我於五濁悪世より三菩提まゝの意ハ。我此世の中ゝ於ゝ此行ゝ難事ゝ行ゝ阿耨多羅三藐三菩提ゝ得ゝの義なり。此難事とハ上巻ゝも以ゝ如ゝ。釈尊ハ摩迦陀國淨飯大王の皇子ゝ。御位と中富貴とゝハ。間の得ゝゝ御果報を受ゝハ。御身なるゝ一切衆生乃悪趣ゝ墮るゝ救ゝゝ。千鈞の御身と以ゝ十善万乗乃富貴と捨。鳥も通ハね難山ゝ分入億万無量の辛苦と忍び難行苦行ゝ行ゝ。なゝ夷十二年。是誠ゝ前代ゝも例なゝ。後代ゝも又有ゝ難中の難事なり。是皆末世の衆生を済度せんとの大慈大悲乃佛恩ゝ。実ゝ勿体なゝ御叡慮なり。阿耨多羅三藐三菩提を前の註乃ゝ。又為一切世間說此難信之法是爲甚難とハ前段乃文と再び挙ゝハ一切世間の為ゝ衆生の信ゝ難ゝゝの此法と統を

甚難の事なり。中く容易の事にあらずとの義なり

佛說此經已舍利弗及諸比丘一切世間天人阿修羅等聞佛所說歡喜信受作禮而去

佛說此經已とは佛此經を說已りたまふとの義なり。是又紀者阿難の詞也

舍利弗より以下は退散せる聽衆の事。諸の比丘一切世間の天人阿修羅等佛の說の所を聞く歡喜信受特禮拜を作して去るの義なり。天とは天上の諸天菩薩の事。人とは人間。阿修羅は人間の外乃鬼類なり。聞く悅の見るを歡とし。心に悅を喜とし。信受は佛の說の所を難有なりと信受特なり。信を尊む

阿彌陀經和訓圖會下之卷大尾

天保十二年辛丑春補刻

二都發行書林

須原屋茂兵衛　須原屋伊八

岡田屋嘉七　山城屋佐兵衛

西宮治兵衛　丸屋善兵衛

秋田屋太右衛門

國立國會圖書館藏 昭和 36 3. 14 受入